

第 3 学年 社会科学習指導案

1 単元名 国民として国の政治を考えよう (帝国書院『中学生の公民』 pp. 60～69)

2 単元について

- 本単元は、学習指導要領の内容 (3) イを受け、「民主政治の推進と、公正な世論の形成や国民の政治参加との関連について考えさせる。その際、選挙の意義について考えさせる」ことをねらいとしている。2017 年 10 月、衆議院の解散が報道された。10 月 22 日には、公職選挙法が改正されて以来初の衆議院選挙を迎えることになる。前年には選挙権が 18 歳に引き下げられた後に初の参議院選挙が行われたこともあり、注目を集めた。このとき、東京都の 10 代投票率は全国 1 位であった。ところが、2017 年 7 月に行われた東京都議会議員選挙では、前年の参議院選挙の投票率を下回るという結果になり、若年層の投票率を持続させることの難しさが確認されることとなった。

私たちが生きる民主主義社会は、一人一人が意思決定をし、参加することで成り立っている。一部の人だけが全てを決める社会では、その意見に振り回され、多くの人の幸せが奪われてしまうこともある。そのため、一人一人が、積極的に社会参画していくことが求められる。公民的分野の政治の学習では、国の行政、司法、立法や地方自治について学ぶ。これまでに学んだことを生かし、現代社会の抱える課題や政策と照らし合わせて考えることで、生徒一人一人がよりよい民主主義社会の実現に向けて考える機会になり、積極的な社会参画への態度につながる。

- 本学級の生徒に行ったアンケートによると、「社会科は好きな方だ」という質問に対して「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた数は 15 名だった。また、「世の中の出来事について興味や関心は高い方だ」に対しては、20 名の生徒が「あてはまる」「ややあてはまる」と答えた。これに対して、「苦手」と答えた生徒に、どのように苦手なのかを詳しく回答してもらったところ「用語や人物名、出来事が多くて覚えきれない」が多かった。このことから、社会科の学習は、「暗記を中心とした学習」という認識を持った生徒が、苦手意識を持っている傾向にあることが分かる。

そこで、暗記を中心とした学習から脱却し、学んだことや資料から読み取った情報を活用し、学習内容の理解を深めるための言語活動に取り組んできた。歴史的分野の学習では、「日本は、第一次世界大戦に参戦するべきだったか」「昭和の日本経済を立て直すために、米英独露のどの政策をモデルにするべきか」「日本は、どの時点で戦争を止めるべきだったか」等の単元を貫く問いを立て、レポートを書くことを行った。その結果、問いに対する自分の考えを表現する活動に慣れ、意欲的に取り組む生徒が徐々に増えてきた。

- 本単元では、国の政治や世論とマスメディアの関わり、選挙制度に関連する学習に際して、単元を貫く問い「18～20 歳代の投票率をあげるための手立てを考えよう」を設定し、問いに対する手立てを諸資料から選択した情報や身近な大人の意見、班活動やクラス全体でのパブリック・ディベート等を用いて作らせる。身近な大人への取材や班活動での友人との意見交換、パブリック・ディベートへの参加のような、主体的・対話的な学習活動を通じて、単元の学習内容を深めさせることを狙う。

そこで、次のように授業の単元を構成する。第 1 段階は、単元を貫く学習課題を設定し、教科書に登場する基礎的・基本的な用語は、学習プリントを用いてまとめさせる。第 2 段階は、問いに関する諸資料を用意し、手立てとして有用な情報を選択させる。このとき、身近な大人の意見も参考にし、問いに対する手立てを考えさせる。第 3 段階は、班活動で互いの意見交換の後、班としての手立てを考えさせる。そのうえで、よりよい手立てになるように、クラス全体で問いに対するパブリック・ディベートを行い、質問や意見交換を基に手立てを修正し再提案させる。第 4 段階は、パブリック・デ

ィベートの後に、一連の学習活動を通して最終的な自分の意見を記述し、学習のまとめをさせる。

3 単元の目標

- (1) 国における現実の政治に対する関心を高めさせ、将来国政に参加する公民として、民主的な政治と政治参加の方法について考えさせる。
- (2) 良識ある主権者として主体的に政治に参加することの意義について多面的・多角的に考えさせ、その過程や結果を適切に表現させる。
- (3) 国の政治の仕組みに関する様々な資料を収集し・選択し、読み取らせるとともに図表などにまとめさせる。
- (4) 現行の選挙制度のしくみと課題について理解させる。

4 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	資料活用の 技能【技】	社会的事象について の知識・理解【知】
○国における現実の政治に対する関心を高め、将来国政に参加する公民として、民主的な政治と政治参加の方法について考えようとしている。	○選挙は主権をもつ国民の意思を政治に反映させるための主要な方法であり、議会制民主主義を支えるものであることを踏まえ、良識ある主権者として主体的に政治に参加することの意義について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○国の政治の仕組みに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	○国の政治と現行の選挙制度のしくみと課題について理解し、その知識を身に付けている。

5 単元の指導計画（全7時間）

過程	生徒の主な学習活動	教師の働き掛け	評価（・）評価の観点【】	時配
つかむ	○単元を貫く学習課題を設定し、学習の見通しを持つ。	○「日本と外国の投票率の比較」、「日本の年代別投票率の推移」から投票率の低下に気付かせ、「棄権者の理由」を基にして、生徒とともに問いを設定する。単元計画と評価規準を示し、単元の見通しと評価方法に関心を持たせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・投票率の低下から国における現実の政治に対する関心を持っている。 【関】 ・気づきと疑問から単元を貫く学習課題を設定し、確かめたいことやもっと知りたいことを考えている。 	1
[単元を貫く学習課題] 若者の投票率を上げるための手立てを考えよう				

<p>調 べ る</p>	<p>○国の政治，マスメディアとの関わり，選挙制度について，基本的な学習内容をまとめる。</p> <p>○単元を貫く学習課題に関する資料を読み，メリットとデメリットをまとめ，主張を作るために身近な大人の協力を得て必要な情報を集める。</p> <p>○グループでアイデアを出し合い，問いに対する立場を決め，発表原稿を作る。</p>	<p>○個人での調べ学習やグループ学習で話し合い活動を行い，学習プリントに基礎的な内容をまとめさせる。</p> <p>○外国の選挙制度や日本の選挙制度について補助資料を読み，必要な情報を選択させてワークシートにまとめさせる。</p> <p>○グループで一つの手立てを決めて，全員で話し合いながら発表原稿の内容を考えさせる。</p>	<p>・国の政治と現行の選挙制度の仕組みについて理解している。 【知】</p> <p>・外国と日本の選挙制度を比較した資料から必要な情報を収集・選択しワークシートにまとめている。 【技】</p> <p>・外国の選挙制度や日本の選挙制度についての補助資料や，身近な大人から得た情報を基に，選挙制度について考えている。 【関】</p> <p>・問いに対する立場を決めるために話し合いを行い，1つの立場として意見をまとめている。 【思】</p>	<p>5</p>
<p>考 え ・ ま と め る</p>	<p>○パブリック・ディベートを行い，最終的な自分の意見文を書いて，考えをまとめる。</p>	<p>○教師が司会を行い，討論を行わせる。相手を打ち負かすことを目的とせず，協力してよりよい手立てを考えさせる。</p> <p>○提案したことに対する最適な手立てを投票して決めさせる。</p> <p>○書き方が分からない生徒には，文例を示して最終的な自分の意見を書かせる。</p>	<p>・投票の根拠となる適切な資料から，自分の考えをまとめ，様々な意見を聞き，自分なりに判断した上で，自分の考えを表現している。 【思】</p>	<p>1 (本時)</p>

6 本時の目標

18 歳～20 歳の投票率の低下について，その背景を理解した上で低下を防ぐ手立てを様々な立場から提案させ，日本の選挙の投票率を上げるための手立てを考えることができるようにする。

【社会的な思考・判断・表現】

7 展開（本時 7/7）

学 習 活 動	教師の働き掛け（○）と評価【】
<p>1 司会の説明を聞き、学習の見通しを持つ。</p>	<p>○単元を貫く学習課題を示し、全員で問いに対するよりよい手立てを考えていくことを確認する。</p>
<p>〔単元を貫く学習課題〕 若者の投票率を上げるための手立てを考えよう</p>	
<p>2 立論を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・各政党（グループ）の提案の要点</p> <p>A党：投票すると、サービスを受けることができる「選挙割」を実施する。</p> <p>B党：身近な場所に、「期日前投票所」を設置する。</p> <p>C党：投票を「義務化」する。</p> <p>D党：「主権者教育」を早期から実施する。</p> <p>E党：インターネット上での「オンライン投票」と被選挙権年齢の引き下げを実施する。</p> <p>F党：同年代の若者による呼びかけをする。</p> </div> <p>3 質疑と意見交換を行う。</p> <p>4 論点の明示と意見の修正を行う。</p> <p>5 意見の再提案を行う。</p> <p>6 パブリック・ディベートで話し合ったことを基に、最適だと考える手立てに投票する。</p> <p>7 単元を貫く学習課題に対する解決の手立てを記述する。</p>	<p>○ワークシートに示した書き方に合わせていること、複数の関連資料の中から手立ての根拠となる資料を選んでいることを確認する。</p> <p>○相手の手立てについて、よりよい提案になるように付け足し意見を述べさせる。</p> <p>○質疑や意見交換の中に難しい語句があれば補足説明する。</p> <p>○司会は双方の手立ての論点を明示し、それぞれの手立ての違いを把握させる。</p> <p>○自分たちの手立てを質疑や意見交換で得られたことと比較させ、再考させる。</p> <p>○授業全体を振り返らせ、投票の仕方を電子黒板で提示して補足説明する。</p> <p>○単元の学習を振り返らせ、単元を貫く学習課題に対する自分の考えを記述させる。 【評価】</p>

8 本時の評価

評価規準	18 歳～20 歳の投票率の低下について、その背景を理解した上で低下を防ぐ手立てを様々な立場から提案し、日本の選挙の投票率を上げるための手立てをワークシートに記述している。 【社会的な思考・判断・表現】		
判断する目安 (判定基準)	十分満足できる状況(A)	おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)
	○ワークシートに合わせた書き方に沿って、日本の選挙の投票率を上げるための手立てを、自分なりの根拠を基に記述している。	○ワークシートに合わせた書き方に沿って、日本の選挙の投票率を上げるための手立てを記述している。	(B) に達していない状況
→(B), (C)と判断した生徒への支援		○○他の生徒の意見を参考にするように声掛けをする。	○自分の手立てを考えやすいように、資料の選択、手立ての書き方について、文例を提示する。
評価方法	ワークシートの記述		